

今月第9号は中西部大阪高槻クラブの和田早苗ワイズにご登壇いただきます。



## EMC について考えること

中西部 大阪高槻クラブ

和田 早苗ワイズ

中西部今期(2018-19)主査を拝命し非常に頭を痛めつつ、しかし自分なりにワイズメンズクラブとは?ワイズダムとは?ワイズ運動とは?をしっかりと見つつ、感じつつ歩ませていただいています。

私が12年前に入会したのは、今はありませんが、豊中クラブです。私は YMCA とはすでに20年ほどの付き合いですが、ボランティア チューターや、奏楽奉仕、常議員、運営委員を経験する中で、豊中クラブ入会前からワイズメンの方々の働きぶりを見ていて、爽やかな印象を持っていました。

その当時、豊中市にあった北 YMCA と言うランチでリーダー活動してきた OB と、それを支援してきた人達とで構成されていた豊中ワイズメンズクラブがありました。ワイズメンズクラブは、スタッフ、リーダー、運営委員などと共に YMCA の活動を強力にサポートしていました。殆どメン、メネット揃っての参加で、実に熱心に北 YMCA の諸行事、そしてリーダー達をサポートしていました。夏のリーダー会、チャリラン、クリスマス、リーダー卒 Y 会など、メネットさん総出の手作り料理が並んでいました。

そのような活動を見て、既に60歳になっていた私は、これから先には地元でこんな会に入って活動したいと、誰に勧められることなく入会しました。

ワイズ入会の経緯は以上ですが、今振り返ってみれば、それだけ生き生き活動できる対象があっただけでなく、メンバーの皆さんのお人柄も立派でした。それ以来、手さぐり状態でしたが会長職を3回お引き受けし、頑張っていました。しかし、病に倒れられる方が次々と続き、50周年という記念すべき時期を迎えながらどうすることもできず、やむなくクラブ閉会となったわけです。

その時点から、新入会員へのフォローについて感じていたことがあります。「あなたが思うままにワイズライフを送って下さい。」と言うように、適切な入会アドバイスをせず、まかせっきりにするのは如何なものかと思えます。私のように入会前から外側から見ていて、どんな奉仕の仕方とかはわかっても、部会や区大会に参加の折には、ワイズ用語や大勢の中での身の処し方には戸惑いがありました。

このような私の経験から、新入会員の方を出来るだけ部会、区大会、他クラブ訪問等、果てはアジア太平洋地域大会、国際大会にお誘いし、国際的な協会であるワイズメンズクラブの一員である実感などを味わってもらうまで、丁寧にお付き合いして一緒に過ごすぐらいの親切さが必要と感じます。

私自身は好奇心も旺盛でどんどん知ってみようという気持ちから、FB など SNS ツールを通して遠くの他クラブのワイズと知り合いになれている今ですが、入会される方が皆そんなご性格でもないと思われるので、クラブ内でも EMC や交流の委員などの配慮が必要と思います。

部会や区大会で皆名札をぶら下げていますが、それを頼りに「どちらのクラブですか？」の声掛けとか、明らかに会場内ですれ違う人々は同じワイズメンなのですから、声を発せずとも会釈ぐらいは交わすべきではないでしょうか。このように書き出すと、挨拶を交わすことに於いては自クラブ、部会ですら知り合いだけが楽しそうにしている、他クラブのワイズに対しては「あんた、だれ？」状態が多いと思います。

どうなのでしょう？気持ちよく人を迎え入れる団体だと胸を張って言えるかどうかときつようですが、感じています。

私の主査の標語に「8クラブ 家族となって EMC」と掲げていますが、ほんとに人を招かれるような土壌づくりを今一度振り返ってみる時期ではないでしょうか。自クラブの増員だけでなく、中西部にはどんなワイズ達がいる、どんな働きをしているのかなど興味を持ちワイズメンであることの共感を、そしてワイズライフの楽しさをシェアし、その様子を見て仲間になりたいと思う人が出てくるように、メンバーを増やしませんか。そんなことを私は今考えています。

「EMC につなげる会パートⅡ」を開催しようとしています。まずは生き活きた顔のワイズ、こんにちは～！こんばんは～！ひさしぶり～！と、声を発しませんか？

今いるワイズで肥沃な土壌造りを心掛けませんか？そこには YMCA が云々、クリスチャニティーが云々等の問題じゃなく、仲間と一緒に働き、周りに喜んでもらい、自分たちが仲間としても喜び、時には学びの時があり、それも一緒に学べる喜び、また何より仲間と飲んだり食べたりを喜び、そうして過ごしていく楽しさのあるワイズメンズクラブになって行きたいものです。

(中西部 EMC 事業主査)

次号第10号はびわこ部長浜クラブの松岡義隆ワイズにご登壇いただきます。